

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

長久手市地域公共交通会議
(長久手市)

平成20年11月25日設置

令和6年3月 長久手市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和6年4月～令和11年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

【長久手市の地域特性】

- 市を中心を東西方向にリニモ、市西部を中心に民間の名鉄バスが路線網を形成。
- 市営のコミュニティバス（N-バス）が市内の移動を補完。
- 大型商業施設の開業や交通結節点の整備に伴い、新型コロナウイルス感染症の拡大以前までは交通利用者は増加傾向で推移、R6年度実績ではジブリパークの全エリア開業などの影響で、リニモ利用者は過去10年で最も多くなっている。

長久手市地域公共交通計画(2024年3月策定)

1)期間:2024年度～2028年度

2)将来像

さまざまな交通手段が共生し、つながりのある公共交通

3)基本方針

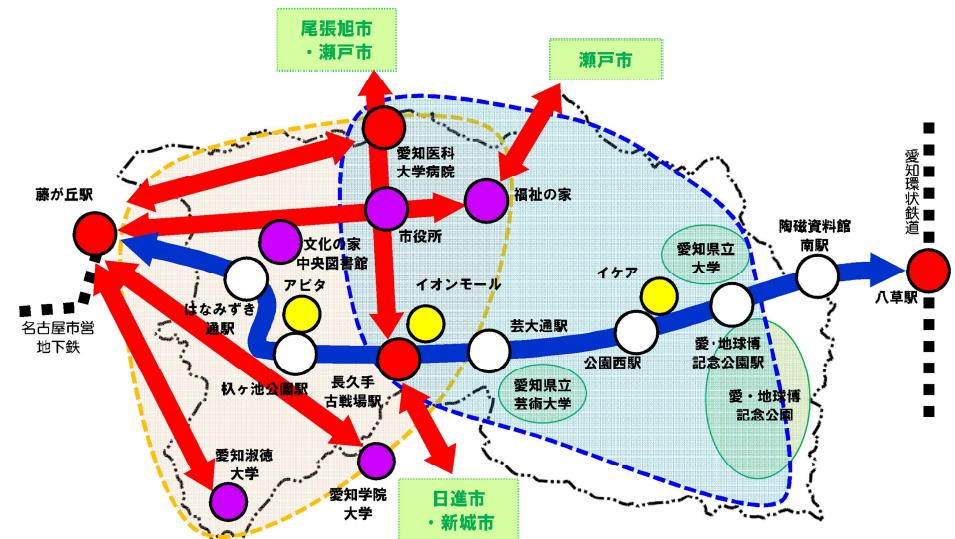
基本方針1: 地域共創による地域交通
ネットワークの確保・維持・改善

基本方針2: 公共交通の利用促進の充実

4)目標

- ① 市内基幹交通(リニモ、名鉄バス)及び補助交通(N-バス)の利用者数の増加
- ② 公共交通を便利にする取組の満足度向上
- ③ 公共交通利用を考える意識の向上
- ④ 利用促進に関する市の取組の拡大
- ⑤ バス運行に対する市民の認知度の向上

【市西部】 利用促進の強化	【市東部】 公共交通ネットワーク改善の検討
------------------	--------------------------



補助対象	N-バス路線	運行範囲
●	中央線 (右回り・左回り)	市西部
●	西部線 (右回り・左回り)	市西部
	藤が丘線	市西部
	東部線	市東部
●	三ヶ峯線	市東部

Legend:

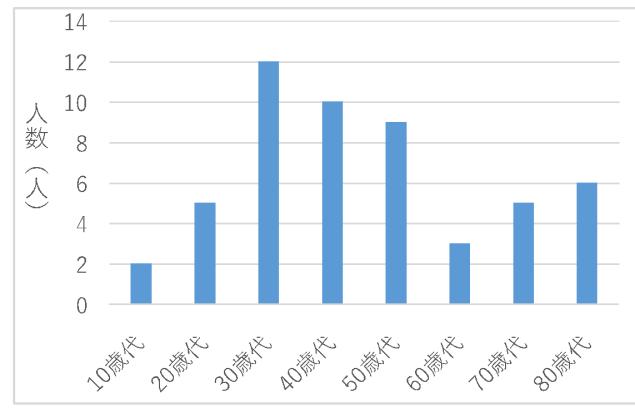
- Blue double-headed arrow: 都市間幹線 (リニモ) - Inter-city main line (Linimo)
- Red double-headed arrow: 都市間幹線 (バス) - Inter-city main line (Bus)
- Red dot: 交通結節点 - Traffic hub
- Purple circle: 主要な施設 - Major facility
- Yellow circle: リニモ沿線の主要商業施設 - Main commercial facilities along Linimo route
- White circle: リニモの駅 - Linimo station
- Green oval: 県有地 - County-owned land
- Orange dashed line: N-バスを中心とした交通網 - Transportation network centered around N-bus
- Blue dotted line: N-バスと新たな交通手段を連携した交通網 - Transportation network connecting N-bus with new transport modes

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

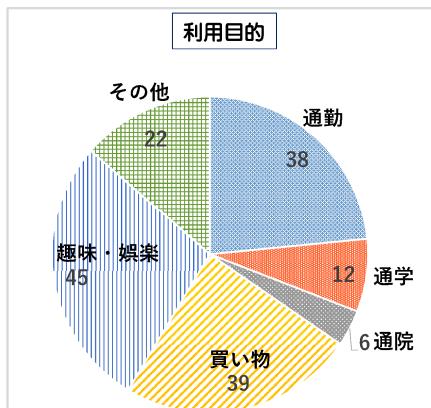
3

実施事業	概要	実施結果	結果考察
N-バスに関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> N-バスの利用実態把握のため、乗降調査を実施 R6年度は10～11月に東部・三ヶ峯エリアのデマンド型交通実証実験の実施 R7年度は9月～12月に東部エリアにおけるデマンド型交通実証実験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> R6年度はR6.7月、R6.11月、R7.3月の3回、R7年度はR7.7月、R7.11月、R8.2月（予定）の3回の調査を実施（大同大学と共同研究） R6年度実証実験における実績 利用登録者：119人 利用件数：189件 利用人数：延べ316人 乗合数：3件 	<ul style="list-style-type: none"> 県道瀬戸大府東海線の工事実施による福祉の家バス停の移動の影響か、R7年4月以降で一部路線に利用者の減少がみられるため、乗降調査結果と合わせて、バス停の利便性等の視点からも次期路線見直しに向けた分析を行う。 デマンド利用として子育て世帯の移動需要が大きい傾向にある。 三ヶ峯エリアの乗降として、エリア内での降車は0件であったが、公園西駅(50.0%)、長久手古戦場駅(30.6%)の両駅での降車が全体の80.6%を占めた。

▼R6年度デマンド実証実験結果



●利用者年齢のうち分け



●利用目的のうち分け

▼R7年度デマンド実証実験における運行エリア



2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

実施事業	概要	実施結果	結果考察
市民参加型の利用促進	・市民で構成する「公共交通応援隊」による利用促進活動	・R 6年11月に長久手楓まつりのステージでN-バスソングを披露。 ・R 7年1月にながくて公共交通フェスタ開催 ・R 7年10月に市内公共交通の啓発のため、長久手公共交通かわら版「のりやあせ」13号を発行。市役所や市内公共施設で配布。	・市内公共交通に対するR 6年度の利用者数はR 5年度よりも増加傾向にある。公共交通の利用促進のため、今後も当団体の活動支援を継続する。
その他の利用促進	・市や近隣市町が主催となり行った利用促進活動	・R 7年2月に尾三地区のバスが集まったイベント「バスフェスティバル」を実施。 ・ながくて移動手段ガイド発行 ・シェアサイクルポート増設	・近隣市町のバスとのつながりを多くの方に知っていただく機会になった。 ・N-バスに対する市民意識向上のため取組を継続する。

▼ながくて移動手段ガイド



▼ながくて公共交通フェスタ



▼「のりやあせ」第13号



【長久手市地域公共交通計画の評価の考え方】

- ・公共交通計画で取組む事業の評価は、長久手市地域公共交通会議で審議。
- ・利用者数の経年変化は、交通事業者の実績報告で経年変化を把握
- ・市民に対するアンケート調査で把握する評価指標については、次回の市民アンケート調査が令和9年度を計画していることから今年度時点での評価は行わない。

【長久手市地域公共交通計画の評価指標と目標】

▼下記の公共交通利用者に関する指標は、毎年の利用実績により目標値の状況を把握できることから、直近5年間の利用実績の推移を比較し、R6年度実績を評価する。

※1年度を4月～3月として実績を算出

評価指標	目 標 (R 6 年度)	実績と達成状況					考 察
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
市内各公共交通の利用者数	●合計 ：5,021,968 人/年	●合計 ：2,975,334 人/年	●合計 ：3,786,341 人/年	●合計 ：4,615,734 人/年	●合計 ：5,196,898 人/年	●合計 ：5,751,074 人/年 (達成)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス拡大の影響にともなう各公共交通の利用者数の減少は回復傾向にあり、R6年度も前年度よりも増加した。 ・リニモはジブリパーク開業の効果も大きく、コロナ以前のR1実績を上回る利用者数となっている。
	【参考】内訳 ・リニモ ：4,084,000 人/年 ・名鉄バス ：790,000 人/年 ・N-バス ：147,968 人/年	・リニモ ：2,326,000 人/年 ・名鉄バス ：497,000 人/年 ・N-バス ：152,334 人/年	・リニモ ：3,041,000 人/年 ・名鉄バス ：608,000 人/年 ・N-バス ：137,341 人/年	・リニモ ：3,755,000 人/年 ・名鉄バス ：728,000 人/年 ・N-バス ：132,734 人/年	・リニモ ：4,269,000 人/年 ・名鉄バス ：788,000 人/年 ・N-バス ：139,898 人/年	・リニモ ：4,531,000 人/年 ・名鉄バス ：806,000 人/年 ・N-バス ：141,074 人/年	

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

▼公共交通の利用者数以外の評価指標は以下の4種類となる。

※年度を4月～3月として実績を算出

評価指標	目標 (R10年度)	計画策定期 (R5.3月時点)	実績と達成状況 (R7.3月時点)	考 察
・利用促進に関する市の取組の拡大	● 5種類	● 2種類 ・N-バスカプセルトイ ・公共交通応援隊キッズイベント	● 7種類 ・ながくて公共交通フェスタ開催 ・尾三地区でのイベントへの参加(バスフェスティバル) ・N-バスソング披露 ・ながくて移動手段ガイド作成 ・シェアサイクルポート増設 ・カプセルトイ等啓発品の作成 ・福祉と連携した利用促進策の展開	・公共交通応援隊等、市による周知・広報活動を継続するとともに、市内外の関係機関とも連携しながら引き続き利用促進施策を展開する。
・公共交通を便利にする取組の満足度向上(満足割合の増加)	・25%以上	・22.10% (R4市民アンケート調査結果)	—	・R9年度に評価
・公共交通利用を考える意識の向上(利用を考えない割合の減少)	・20%未満	・27.80% (R4市民アンケート調査結果)	—	・R9年度に評価
・各公共交通を利用しない理由で「バスがどのように走っているか分からぬ」という回答割合の減少	・名鉄バス：14%未満 ・N-バス：17%未満	・名鉄バス：16.7%未満 ・N-バス：19.5%未満 (R4市民アンケート調査結果)	—	・R9年度に評価

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

7

■【R7年度事業分地域公共交通計画別紙(フィーダー系統)の評価】

路線名	フィーダー系統	目標値・評価	R 5.1 0月～R 6.9月分実績	R 6.1 0月～R 7.9月分実績
中央線（右回り）	○	利用者数：28,193人/年 1便あたり：12.3人/便	利用者数：26,987人/年 1便あたり：11.7人/便	利用者数：28,018人/年 1便あたり：12.2人/便 未達成 未達成
中央線（左回り）	○	利用者数：25,017人/年 1便あたり：12.9人/便	利用者数：24,161人/年 1便あたり：12.5人/便	利用者数：23,855人/年 1便あたり：12.3人/便 未達成 未達成
西部線（右回り）	○	利用者数：25,001人/年 1便あたり：12.9人/便	利用者数：24,710人/年 1便あたり：12.8人/便	利用者数：25,016人/年 1便あたり：12.9人/便 達成 達成
西部線（左回り）	○	利用者数：26,360人/年 1便あたり：11.5人/便	利用者数：24,747人/年 1便あたり：10.8人/便	利用者数：25,841人/年 1便あたり：11.3人/便 未達成 未達成
三ヶ峯線	○	利用者数：17,566人/年 1便あたり：10.4人/便	利用者数：15,364人/年 1便あたり：9.1人/便	利用者数：15,163人/年 1便あたり：9.0人/便 未達成 未達成
【参考】 N-バス全路線		—	利用者数：140,411人/年	利用者数：143,254人/年 達成
藤が丘線		—	利用者数：18,889人/年 1便あたり：10.5人/便	利用者数：19,467人/年 1便あたり：10.8人/便
東部線（右回り）		—	利用者数：2,499人/年 1便あたり：2.6人/便	利用者数：2,752人/年 1便あたり：2.8人/便
東部線（左回り）		—	利用者数：3,054人/年 1便あたり：2.8人/便	利用者数：3,142人/年 1便あたり：2.9人/便

＜達成状況についての考察＞

- ・地域公共交通計画別紙（フィーダー系統）（令和7年度事業分）では65歳以上の運賃有償化及びコロナウイルスによる出控えの影響を考慮した目標値を設定した。
- ・N-バス全路線の合計利用者数は前年度より増加し目標を達成したが、上記の3路線の利用者数は前年度よりも減少し目標も未達成となった。

＜対応方針＞

- ・利用促進に努めるとともに、地域に合ったN-バス路線の構築を目指して事業に取り組む。
- ・移動ニーズの変化に適した市内公共交通の路線体系を構築するため、東部地域におけるデマンド交通の実証実験をR7年度に行う（R7年は9月から12月までで実施）。

計画目標の現在の到達点	今後の取り組み方針	
市内公共交通（リニモ・名鉄バス・N－バス）利用者はコロナ禍以降上昇傾向にあるものの、N－バスについては計画目標値には達成できていない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 各交通手段ともに昨年度よりも利用者数は増加していることから、公共交通利用の促進に関するイベントや広報活動等の取組を継続的に行い、市民の利用意識の向上や来訪者への周知を図る。 ● R 6年度デマンド型実証実験の結果は、利用人数は316人で乗降場所は駅前が多く、また東部エリアで完結する移動が最も多かった。 ● R 6年3月策定の長久手市地域公共交通計画のように、市東部地域に合わせた新たな移動手段導入の確保を目指している。そのためにデマンド型交通等新しい交通体系の導入検討し引き続き実証実験を行い、検証を続けていく。 	
利用促進に関する市の取組の拡大は計画策定時の2種類から7種類に增加了。	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後も広報紙の発行や公共交通マップの掲載等、市内外に向けて公共交通に関する情報発信を継続的に実施する。 ● 交通事業者や市民団体、民間企業が実施するイベント等の取組もあることから、こうした関係機関とも連携・協力し交通のみならず環境や観光、福祉の分野と連携した利用促進策を展開していく。 	
目標アンケート評価による （今年度トータル評価による）	公共交通を便利にする取組の満足度向上（満足割合の増加）	<ul style="list-style-type: none"> ● R 4年度市民アンケートではN－バスの運行体系に係る不満が割合として大きいため、東部地域デマンド交通の実証実験の結果等から市民ニーズを分析を行う。
	公共交通利用を考える意識の向上（利用を考えない割合の減少）	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通に関するイベント等取り組みを継続し、市民の公共交通への利用意識の醸成を図る。
	各公共交通を利用しない理由で「バスがどのように走っているか分からない」という回答割合の減少	<ul style="list-style-type: none"> ● 全年代に向け、幅広く周知を図るため年齢層に応じた情報発信（電子媒体・紙媒体・テレビ）を行うことで幅広く周知を図る。 ● 公共交通と地域の移動資源（福祉有償運送等）の情報を集約したマップの作製等による一体的な情報発信を検討する。

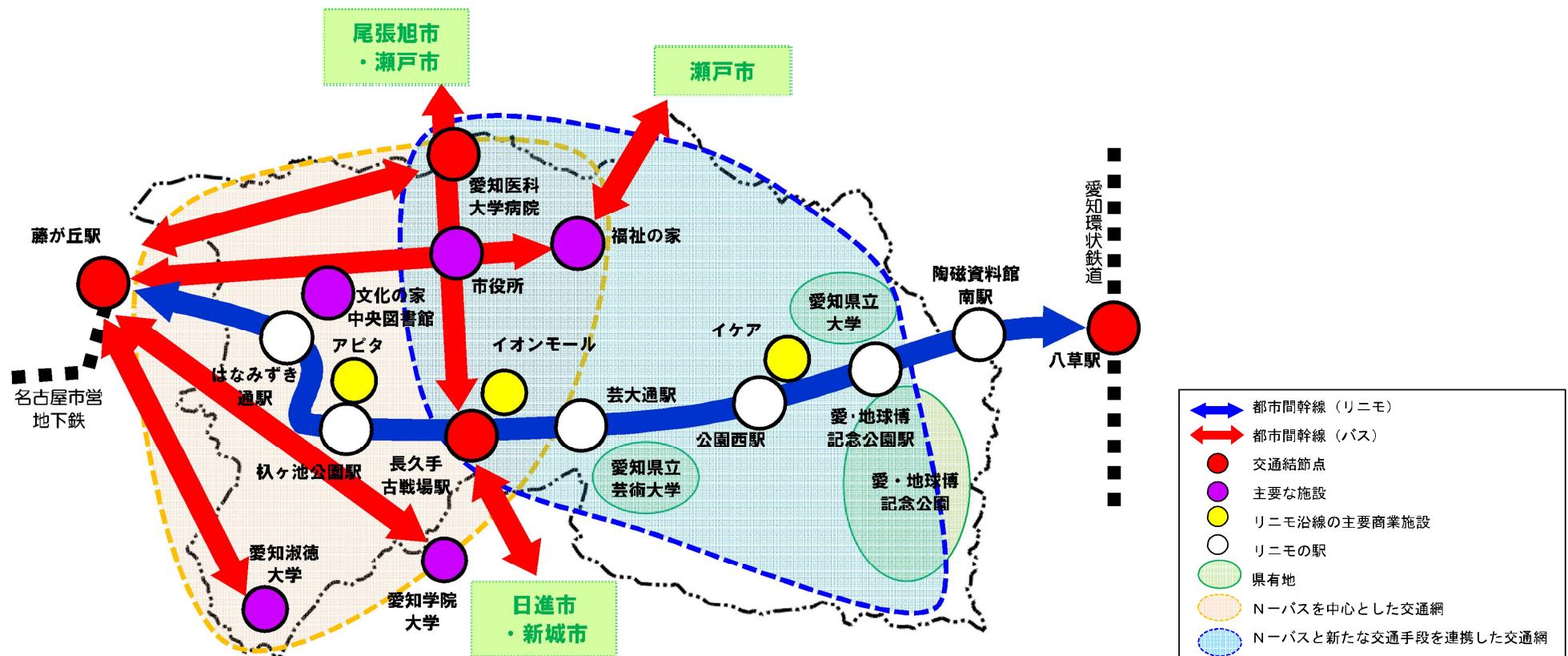
【地域公共交通計画（R6.4～）で定める基本方針実現のための取組の方向性】

● **市西部：公共交通路線が充実しているため、既存交通手段の利用促進を強化**

→公共交通に対する利用促進をはかるため、今後も周知活動の実施を継続するとともに交通に関わる新しい集客イベント等を検討。

● **市東部：地域のニーズに沿った公共交通ネットワークの改善を検討**

→市東部地域におけるデマンド型交通実証実験をR7年度に実施し、地域ニーズに合った交通体系を検討中。



年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
令和6年度評価文	市民の公共交通に対する意識醸成と公共交通の利用促進に繋がる取組を継続し、市民の声も踏まえ、地域の特性にあった公共交通の構築に取り組まれることへの期待	デマンド型交通実証実験や公共交通利用の促進に関するイベントや広報活動等の取組を行い、地域の特性に合わせた交通機関の整備や市民の利用意識の向上や来訪者への周知を実施した	地域特性に合った便利で持続可能な公共交通体系の確保のために、市東部地域におけるデマンド交通の実証実験をR7年9月～12月に実施。結果を分析し、地域に適した路線網の見直しを図るための取組を進める

※前回：令和7年3月27日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
令和5年度評価文	地域公共交通計画で実施予定のN-バス路線見直しについて、市民アンケートやワークショップの結果を踏まえ、地域特性に合った運行体系が検討されることへの期待	アンケート・ワークショップの分析結果から得られた公共交通への課題を基に、長久手市地域公共交通計画における市の基本方針や取り組みを策定した	移動ニーズの変化に適した市内公共交通の路線体系を構築するため、東部地域におけるデマンド交通の実証実験をR6年、R7年10月～11月に実施。結果を分析し、地域に適した路線網の見直しを図るための取組を進める
	地域間幹線系統とN-バスの乗り継ぎについて、乗り継ぎ場所の整備や情報発信が行われることへの期待	公共交通計画における計画事業の1つとして乗り継ぎ利便席の向上を定めており、ソフト（割引、ダイヤ調整）・ハード（待合施設、案内板の設置）双方からの取組を図る	今後もバスマップや広報活動を通じた情報発信を行うほか、各交通事業者と協力し、地域公共交通再構築事業の活用も視野に入れながら整備の検討を図る

※前々回：令和6年3月21日

【長久手市地域公共交通計画における評価スケジュールに基づいた令和7年度分事業の抜粋及びP D C Aサイクルのイメージに基づく評価】

令和7年度の年間スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
公共交通会議		①			②				③			④
取り組み内容	今年度取組事業の検討 P							事業評価 C				
	デマンド型交通実証実験の準備 P						実証実験の実施 D			C	A	
							利用促進 D					R8年度実証実験における課題の抽出・分析

【地域公共交通会議の実施状況】

第68回会議令和6年12月16日 主な議題:令和6年度デマンド型交通実証実験の結果概要および令和6年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価についての協議

第69回会議令和7年3月10日 主な議題:県道瀬戸大府東海線工事に伴うN一バスのルート変更およびデマンド型交通実証実験についての協議

第70回会議令和7年5月23日 主な議題:地域公共交通確保維持改善事業の協議および令和7年度デマンド型交通実証実験についての協議

第71回会議令和7年8月25日 主な議題:東部線沿線区域のデマンド型交通実証実験についての協議